

高等学校における合理的配慮の校内研修に関する研究

「実態把握チェックリスト（案）」の作成と活用

大崎 博史 笹森 洋樹
（国立特別支援教育総合研究所）

KEY WORDS: 高等学校, 合理的配慮の提供, 実態把握チェックリスト

【目的】

中学校から高等学校への進学率は 98%を超え、様々な特別な教育的ニーズのある生徒が数多く高等学校に進学していることが想定される。高等学校においても合理的配慮の提供について検討することは喫緊の課題である。大崎・笹森・三宮（2019）が高等学校 23 校を対象に行った「高等学校における合理的配慮の提供や特別支援教育の現状と課題に関するインタビュー調査」では、各校が認識している特別な配慮を必要とする生徒の実態や生徒数に違いがみられた。特別な配慮を必要とする生徒を数多くリストアップしている学校もあれば、ほとんどリストアップしていない学校もあった。学校によってこのような違いが見られる要因として、高等学校は課程や学科が多様であり生徒の実態も様々であること、特別な配慮を必要とする生徒をリストアップする教員個々の見立て方が違うこと等が考えられる。

本研究では、課程や学科に関わらず、どの高等学校においても特別な配慮を必要とする生徒に合理的配慮の提供がなされることをめざして、高等学校における合理的配慮の校内研修プログラム（案）を作成することを目的としている。研修プログラム（案）の内容は、各学校における合理的配慮の提供にかかる「実態把握チェックリスト」と「手がりシート」の活用を考えている。本稿では、そのうち「実態把握チェックリスト（案）」について提案する。

【方法】

「実態把握チェックリスト」の作成に当たっては、A:「高等学校における合理的配慮の提供や特別支援教育の現状と課題に関するインタビュー調査」の結果をもとに、B: 高等学校学習指導要領解説各教科編の障害のある生徒などへの指導の内容、C: 都道府県等の教育センター等が発行する合理的配慮の提供等に関する資料等、D: 国立特別支援教育総合研究所のインクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）に掲載されている合理的配慮の提供事例等を参考に作成した。その際、校内で特別な配慮を必要とする生徒に合理的配慮の提供を行うために必要な諸条件とは何かについて検討し、カテゴリー化した。また、各諸条件に対しては、各学校の合理的配慮体制を①個人への対応に任せられている体制。②管理職や特別支援教育コーディネーターに相談できる体制。③校内で情報の共有がなされている体制等の 3 段階で評価できるようにした。

【チェックリスト（案）の作成】

「実態把握チェックリスト」は、校内で特別な配慮を必要とする生徒に合理的配慮の提供を行うための体制整備の現状を把握するためのものである。体制整備に必要な諸条件については、「教員の知識・理解」、「環境整備（施設設備）」、「環境整備（人的配置）」、「必要性の判断」、「提供の方法」、「提供の内容」、「提供の評価」、「他の生徒との公平性」の 8 条件について整理した。作成したチェックリスト（案）を以下に示す。

実態把握チェックリスト（案）

1. 教員の知識・理解（合理的配慮）

- ①個人に委ねられている。（独学）
- ②管理職や特別支援教育コーディネーターに相談している。（合理的配慮協力員等への相談）
- ③校内研修会等で学ぶ機会が保障されている。

①	②	③

2. 教育環境整備（施設設備）

- ①十分には対応できていない。
- ②十分ではないが対応している。
- ③十分に対応がなされている。

①	②	③

3. 教育環境整備（人的配置）

- ①個人に委ねられている。（合理的配慮を専門とする人材がいない。）
- ②支援員、S C、通級指導担当者から合理的配慮の知見を提供されている。
- ③支援員が実務的に協力してくれている。

①	②	③

4. 生徒への合理的配慮の必要性の判断

- ①判断が個々の教員に委ねられている。
- ②管理職や特別支援教育コーディネーターと相談して判断している。
- ③校内で必要性の判断が共有化されている。

①	②	③

5. 生徒への合理的配慮の提供の方法

- ①提供の方法が個々の教員に委ねられている。
- ②管理職や特別支援教育コーディネーターと相談して提供している。
- ③校内で提供の方法が共有化されている。

①	②	③

6. 生徒への合理的配慮の提供の内容

- ①提供内容は個々の教員に委ねられている。どのような内容を提供すると良いのかわからない。
- ②管理職や特別支援教育コーディネーターに相談して決めている。
- ③校内で提供内容が共有化されている。

①	②	③

7. 生徒への合理的配慮の提供の評価

- ①評価は個々の教員に委ねられている。
- ②管理職や特別支援教育コーディネーターと相談して評価している。
- ③校内で評価システムがある。校内委員会に諮り評価している。

①	②	③

8. 特別な教育的ニーズのある生徒と他の生徒との公平性の認識

- ①十分に理解できているとは言えない。
- ②一部の生徒は理解してくれている。
- ③理解してくれている。

①	②	③